

2006.12.6

新 守一（三鷹市）

外環の都市計画案に対する意見

地下方式への変更によって高架構造に対する沿線住民の不安は、一応解決したかに見えましたが、国や都の計画策定によって再び不安は現実性を帯びて来ました。私は現在の東京への過度の一極集中、地方の産業の活力の衰退の状況を見れば、これ以上の市街地への高速道路の導入は東京に於ては必要がないと思っております。百歩ゆづってこの環状道路に意味があるとするならば現在の首都高のバイパス機能のみであります。出来るだけ市街地を破壊せず既存の高速道とのジャンクションを基本とし、大気汚染、騒音等に最大限に配慮して、自治体、住民等の理解を得るべきです。住民の一部からインターチェンジ建設の要請があっても、周辺交通の問題、環境汚染等の問題から出来る限り既存のインターチェンジを利用する方向に誘導するべきだと思います。

東八道路のインターチェンジについては計画案に於て様々な楽観的な説明がされておりますが、大気汚染・渋滞・振動などなど、とうてい住民を安心させるものではなく、現況より環境問題は必ず悪化すると思われます。ましてインターチェンジ周辺の新規の道路建設などは、とくに井の頭地区等では住民の同意が得られるとは、とうてい思えません。

国交省も東京都も上記の点においては充分承知されていると思えます。しかし官僚としての立場上、事業の遂行のみを視野に入れて行動されているのでしようがこのままでは、ますます、住民の信頼を失ってゆきます。どうか計画の進行のあらゆる場面で住民の不安を取り除くよう努力し、信頼を得るようにしてください。

付記

都市計画案については記載はありませんが、上記の理由により外環の2は付属街路と同様に廃止すべきです。

尚、換気設備の排気の処理は吹上方式は反対です。可能な限りNOxの科学的な処理を望みます。